

じゅじゅう

第3号
(通算343号)

発行元
浄土真宗本願寺派
吉富山 浄覚寺
大阪市平野区
長吉長原3-1-10
06-6790-8350

浄覚寺記念法要委員会

第七回(最終回)

四月の記念法要に向けて、

一年以上も前からご相談させていただき、また法要当日には様々なお手伝いをお願いしました法要委員会。六月二十九日の第七回をもって最終回となりました。最終回では主に決算報告と監査報告がなされ、無事に承認をいただくことができました。

皆さまからは本当にたくさんのご懇志やお祝いを頂戴し、ご協力をいただいたお陰で、厳粛の内にも華やかに、またご法要が無事に円成いたしましたこと、改めて御礼申し上げます。

話し合いが終わった後は、お茶菓子をいただき、写真を見ながら、思い出話に花を咲かせることができました。そして、無事に浄覚寺記念法要委員会を解散することとなりました。お世話になり有難うございました。

仏さまのお話を聞く会

六月十六日、梅雨入り前によく晴れた、絶好のお参り日和の日曜日でした。今年二回目になる「仏さまのお話を聞く会」が当山で開催されました。いつものお顔や、久しぶりにお会いできた方もおられた中で、正信偈のおつとめの後、住職がお取り次ぎをさせていただきます。

この度のご議題は、「弥陀智願の広海に、凡夫善悪の心水も、帰入しぬればすなわちに、大悲心とぞ転ずなる(正像末和讃)」です。阿弥陀さまの智慧によってお示しくださった願いは広い海のようなもの。凡夫である私の心が起こす、善い心も悪い心も、いやそれだけではなく、善悪を決めている私の判断基準が、自分の勝手な都合に拠ってしまっている。逆に言えば、そんな心しか起こせない私でさえも、阿弥陀さまは大いなる慈悲の心で受け止めて、お浄土へと迎え取り、弥陀同体の仏とならしめる。あなたも川の水が海に注がれると同じ味となるように、どんな私の姿であってもほっとかず、仏のいのちに生まれさせるこの阿弥陀さまの願いは、まさに広い海のようなお心でありました。

そのようなお話しを、大蛇濟度という親鸞さまの伝説と併せて、お取り次ぎさせていただきますことです。

仏さまのお話を聞く会(定例法座)は毎月

ご法要の様子

何かの行事があるようにと、年に数回行ってきました。今後は装いを新たにしていきたいと考えております。



(直括カレシター六月号)

どうどうどう

なかなか

願いとつが

ととやかな

御文章に聞く(第1回)

御文章ごぶんしょうと聞いても何のことかピンとこない方もおられるかもしれません。「聖人しょうにん一流いちりゅうのく」や「末代まつだい無智むちのく」と聞けば、ああ、おつとめの後やご法話の最後に読まれるあれか…、と言つてくださる方もおられるのではないのでしょうか。

御文章とは御文ごぶんとも言われるように、お手紙のことです。誰が出されたお手紙か、それは本願寺第八代のご門主、蓮如上人が色んな土地や、様々な方に向けてお手紙を出されました。今で言うところの文書伝道(この新聞もそうですね)です。そのお陰で浄土真宗のみ教えが全国に広がっていききました。

では、そのお手紙は何通ほどあるのかという、見つからないものもあるのでしょうか、二百数十通とも言われています。その内、八十通を蓮如上人の孫にあたる円如上人が選ばれて、年代順に第一帖から第四帖、日付のわからないものを第五帖に編纂されました。

また、その中の三十一通はご本山や別院のお朝事あさじで繰り返し読みをされています。私も毎月お宅にお参りさせていただいたときには、その中でも少し短めのものを、月によって変えながら拝読させていただいております。お気づきになっていましたでしょうか。

ただ、気になっていたことがあります。この御文章は蓮如さまの時代に使われていた言葉で書かれています。言葉も時代によって変化していきますので、今、そのまま耳で聞いても、なかなか意味まで理解するのは難しいのではないかと…。

そこで、少しずつ、もちろん色んな参考書の助けを借りてではありますが、御文章を読み解いていければと思っております。

御文章の中心は「信心正因・称名報恩」(浄土真宗のみ教えは他力の信心を根本とし、称名念仏は御恩報謝の行である)です。そのお心をゆつくりと聞かせていただきましょう。

仏教語辞典



愛染明王

密教の「煩惱即菩提」をあらわす明王。人間が消すことのできない愛欲といった煩惱を、菩提心(悟りを求める心)に導き、苦しみから救う。

『気になる仏教語辞典』
著・麻田弘潤 誠文堂新光社
仏教にまつわる用語をイラストとわかりやすい言葉で読み解かれています。ぜひお買い求めください。

編集後記

今月の法語はお配りしているカレンダー六月の一言です。宝くじ売り場に並ぶ人々と、色んな行きたいところ、やりたいことなどの願いが挿絵で描かれておりました。

私は宝くじを買いませんが、ある記事で必ず一等が当たる方法が書かれていました。ユニットごと買い占めることだそうです。(同じ当たり番号の二等が20本あるという話は、20ユニット販売されてくるという話です。)

1ユニットは1000万枚、一枚300円ですから一等の五億円を必ず当てるためには、何と三十億円が必要だそうです…。

買わなければ当たらない、夢を買っているんだよ、という意見はごもつともです。私も欲しいなあと思うことは日常です。ただ、やはり小さなことからユニットごと、大切なのではと思いつながら、七月はごども会を開催させていただきます。

(釋法道)

行事案内

日時・七月二十一日(日) 十時～十六時
行事・ごども会 夏のついで
場所・長原 浄覚寺
内容・流しそつめん、制作、ゲームなど
(なお、当日のお参りはお休みをさせていただきます)

八月十五日(木)
十時・初盆会 法話、当山住職
十四時・孟蘭盆会 法話、花岡静人先生